

## 瀬戸・多治見 やきもの三味の旅

今年度の JIA 三重地域会 建築ウォッチングは、2019 年 11 月 9 日に、一般参加者及び JIA 会員、総勢 25 名の参加で、集合場所の桑名駅前からまず、愛知県に向かいました。

### ■愛知県陶磁美術館

1960 年に、当時発掘された猿投窯が陶磁史を刷新する発見となり、「陶磁器文化のメッカ」に相応しい施設を求め声が上がって建てられました。建築史家・村瀬良太による見どころがイラストで詳しく説明されたパンフレットを用意いただき、建築家・谷口吉郎が最晩年に設計を手掛けた本館をめくりながら、学芸員の方に建物の魅力についてご解説いただきました。この建物は谷口吉郎の名作なのですが、完成を待たずして逝去したため、谷口建築として知られる機会はほとんど無かったということです。

「陶磁器文化のメッカ」に相応しい、タイル装飾にこだわりのある素敵な建築でした。

### ■瀬戸観光コース

尾張瀬戸駅にある中心市街地から東にある洞地区は 19 世紀以降やきものの生産の最盛期を迎える中盛んに陶芸生産が行われていた所で、「洞・窯垣の小径コース」という観光コースを観光ボランティアのガイドをお願いして観光しました。そして、江戸時代に建てられた窯元の邸宅や竜宮造りという珍しい山門のある宝泉寺を見学しました。不要になった窯道具を積み上げて作られた

「窯垣」が続く狭い小径は歩いているだけでも、やきものづくりに生きた洞の職人たちの息吹を感じさせてくれる、楽しい場所です。

### ■セラミックパーク

#### MINO

岐阜県東濃地域において文化振興と産業支援のために構想されたのが、セラミックパーク MINO です。日本初の試みとして、施設内で陶芸の体験をすることが出来る陶芸美術館と、岐阜県最大の展示ホールや各会議場を擁するオリベスクエアからなる複合施設となっています。設計は建築家・磯崎新です。主な特徴は、敷地の持つ貴重な自然環境をできるだけ保存するため、主要な施設は谷間の地形の中に半ば埋め込まれるような形で配置されていることです。当日は屋上広場・回廊・2 階テラス部分のタイル工事のため、多くを仮囲いで覆われ、一部は工事の為見学できませんでした。

### ■多治見修道院

1930 年に、ドイツのモール神父により、日本の修道士の養成を目的に建てられた修道院。中世ヨーロッパを思わせる外観、ステンドグラスや壁画が美しい大聖堂です。そして、心を癒してくれる緑あふれる庭があります。礼拝堂に入ると、正面中央に祭壇があり、半円形ドームの天井に鳩と、周囲に 7 条の光の線が描かれています。天井に近いステンドグラスからの光と内部の雰囲気は神聖な気持ちに導かれます。教会の

裏手にある広大な畑で育てられている葡萄は、「修道院ワイン」となり、多治見産のワインとして親しまれています。私も一本買いまして、ありがたくいただきました。

### ■多治見市モザイクタイルミュージアム

大正時代、旧多治見町あたりで始まったタイル産業は戦後、モザイクミュージアムのある笠原町を拠点に隆盛します。このミュージアムは 1995 年ごろから町の有志が集めていたモザイクタイルのコレクションをもとに、2011 年ごろに建築史家でもある藤森照信氏に設計を依頼。

ユニークな坊主頭のような外観は、タイルの原料になる粘土を切り出す採土場を模したものだそうです。外観がユニークなだけでなく、展示物にも趣向が凝らされ、タイルを使った工作体験などのできるのも、老若男女にも人気がある建物です。

最後に、今回のこの建築ウォッチングの行き先の情報収集については JIA 岐阜地域会にご協力いただきました。JIA 岐阜地域会及び、T さんにこの場をお借りして、御礼申し上げます。

そして、三重支部のこの建築ウォッチングを毎年楽しみにしていただいて、来てくださる一般の方や、学生さんがみえます。感謝しています。今年もツアーが終わって、「来年も来てねー」と学生さんに声をかけたら、来年は就職なので来れないとのことでした。残念でしたが、できれば今後もできるだけこのツアーを続けて、多くの方と良い交流ができればと思いました。

川崎 貴覚 (JIA 三重)

川崎建築設計室

